

平成29年度碧南市藤井達吉現代美術館協議会 会議録（公表・要約）（案・敬称略）

1 日時

平成30年3月26日（月）午後2時～午後3時20分

2 場所

碧南市藤井達吉現代美術館多目的室

3 出席者及び欠席者

(1) 出席委員 平岩統一郎、鈴木並生、菅沼正則、杉浦明、永坂幸子、三宅暢子、
金原功、金原宏行、吉田俊英、北村恒

(2) 欠席委員 白石和己（以上1名欠席）

(3) 事務局職員 生田弘幸、奥谷直人、木本文平、杉浦智彦、神谷幸宏、水村浩一郎、
浅野泰子、土生和彦、大長悠子、豆田誠路、三宅翔士

4 傍聴者 0人

5 あいさつ

6 議題

協議事項

(1) 美術館運営方針及び事業概要について

(2) 平成29年度活動状況について

(3) 平成30年度活動計画について

報告事項

(1) 平成29年度第1回、第2回収集部会の結果について（非公開）

7 会議内容

平岩会長あいさつ

本日は大変お忙しい中美術館協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。
ます。

当館は平成20年に開館し、この4月で記念すべき10周年を迎えます。この
間、様々な企画展を開催し、大変多くの皆様にご来館いただいております。

累計の観覧者数は60万人を超え「大浜まちづくりの拠点施設」という役割も、
十分果たしているのではないかと考えております。

また、もう一つの大きな役割であります教育普及という点でも、小中学校との
連携や多種多様なワークショップなどを継続的に実施しているところであります。

このような活動が認められ、当館を支援していただける篤志家の皆様から、開
館以来、非常に多くの美術作品をご寄贈いただいております。

市民の財産でありますコレクションの充実は大変喜ばしいことではありますが、
その反面、数年前から作品の収蔵スペース不足が深刻な課題となっております。

今回、新年度予算で収蔵庫増設のための設計費が予算計上されたということ

お聞きし、美術館活動を更に発展させることができると喜んでいるところであり
ます。

本日は、当館の活動状況や今後の計画などにつきましてご協議をいただくこと
となりますが、忌憚のないご意見を頂戴いたしまして、当館の発展にお力添えを
いただきますことをお願い申し上げまして、開会のご挨拶といたします。

協議事項

(1) 美術館運営方針及び事業概要について

議 長＝事務局に説明を求める。

事務局A＝美術館運営方針及び事業概要を説明。

議 長＝協議事案についてご質問、ご意見等ございますか。

この建屋自体の雨漏りや不具合はありますか？

事務局A＝台風や予想を超える雨量のとき等は、若干建物の繋ぎ目から雨水
がしみ出ることがありますが、致命的なことではありません。これ
から増築する際も、建物の繋ぎ目は危険性があるので、十分に配慮
して設計していきたいと考えております。

(2) 平成29年度活動状況について

議 長＝事務局に説明を求める。

事務局（担当学芸員）＝企画展、常設展、共催展、教育普及、保存、調査研
究など活動状況を説明。

事務局A＝資料最後に観覧者総数がありますが、本日3月26日時点では9
6, 214人となっております。

議 長＝協議事案について委員の皆様よりご質問、ご意見等ございますか。

委 員A＝作品の修復関係の予算についてお聞きしたいのですが、項目でい
うと美術品運営事業になるのですか。

事務局A＝美術品運営事業になります。業者に委託する場合はそのなかで委
託費ということになります。

委 員A＝野外彫刻作品の維持や修復についてもこの中に予算が含まれてい
るのでしょうか。

事務局A＝彫刻のあるまちづくり事業を経て野外彫刻の所管が美術館に移っ
ております。清掃や修復については、彫刻維持管理事業として予算
立てがなされています。

委 員A＝そうであれば、美術館の仕事、実績としてもっとアピールしても
よいのではないかと思います。

事務局A＝清掃は毎年行っておりますが、修復は毎年行っているわけではな

く、およそ10年に一度くらいの頻度で彫刻の状態調査を行い、急いで修理する必要があるものを先行して行っています。前回は7、8年ほど前に修復を行いました。今後も継続して状態調査を行い、維持・修復に努めて報告していきたいと思います。

委員A＝今後も美術館に収蔵されている他の作品修復の予算とは別に野外彫刻を維持していくための予算も確保できるよう、しっかりアピールしていただければと思います。

委員B＝碧南の臨海公園でブロンズの中野四郎像を見ましたが、雨が降った跡などかなり汚れているようでした。これは美術館の所管ではないかもしれませんが、こういったものの管理も市としてしっかりされた方が良いのではないかと思います。

事務局A＝そちらの銅像は公園緑地課の所管で、以前は体育館の敷地内にあったものですが、現在の場所に移設したことでより経年劣化が目立つようになってしまいました。移設する際に公園緑地課から相談を受け、塗装などのアドバイスをしました。予算の関係でできる範囲の措置しかできなかったのだと思いますが、今後もできるだけ助力したいと思います。

委員B＝彫刻の森美術館は富士山の麓で雨もよく降りあまり条件がよくないところなのだそうですが、職員に維持管理について聞いたところ、なかなか良い方策がないようです。ブロンズに樹脂でカバーするという事も考えられますが、あまり良くないと思われます。他には1週間に1回水道水をかけるという方法もあるようです。参考までにしていただければと思います。

事務局B＝これまでの説明に補足いたしますと、当館が開館する前、碧南の彫刻のあるまちづくり事業を積極的に展開しておりました。これには1970～80年代を代表する作家の作品も含まれます。開館当初、所蔵品がまだ少なかったこともあり、この事業で設置された野外彫刻作品を美術館の所管としました。それを機に、作品の保全管理を徹底するため、全ての作品の状態調査を行い、それによって内部がかなり腐食しているものなどが判明しました。野外彫刻は市民の手に触れるところにあり、地震がきて彫刻が倒れ、市民が怪我をする危険性もあります。そのような説明をして翌年には修繕するための予算をとって修復を行いました。やはり、ある時期にまた調査を行う必要があると思っています。

委員B＝状態が良くないものもでてきているかもしれませんので、ときどきまわって見るなどしていただきたいと思います。

議 長＝他館のことについて伺いたいのですが、新しい作品の購入とその維持管理費はどのようにされているのでしょうか？

委員B＝私がいた館では予算は別々の項目になります。

委員A＝自分の館で持っている作品については貸出の際など、定期的に状態をチェックし、やはり予算のなかで緊急のものの修復を優先して行うというようなかたちかと思えます。

議 長＝新しい構築物を作ることは力を入れやすいのだと思えます。旧くなったものの維持管理というのは目立ちにくい部分ですが、きちんと予算付けをして、いいものは長く維持管理していただきたいと思えます。他にご意見などありませんか。

委員C＝地下1階の展示室4は、資料を見る限りあまり貸出がないようです。どのように活用しているのでしょうか。また、今のワークショップの頻度を上げ子どもたちやお母さんなどをさらに呼び込むことも考えられるのではないかと思います。

事務局B＝企画展で特に規模の大きい巡回展のときは、1階の常設展示室と多目的室の2部屋を企画展で使用することがあります。その際は地下1階の展示室4で常設展を開催しており、今年度はほとんど空いているときがないような状況でした。

事務局A＝そういった状況があるので貸出できるタイミングが限られてしまうのですが、1週間ほどの単位で年に1～3回は貸出を行っています。

議 長＝その他になければ事務局より1年の総括をお願いします。

事務局B＝今年度は10万人に迫る観覧者数となり、全国的によく当館の名前が知られる1年になったと思えます。入場者が増えるのは喜ばしいことですが、今度は駐車スペースが足りず、お客様から苦情をいただくことも多く、大きな問題となってきています。そして、ある程度は承知していましたが、デンマーク・スケーエンの海外展では、作品の搬出入に際して美術品専用輸送車が荷解室に格納できない点等、安全管理の面でクーリエから指摘を受け、当館のハード面での欠落点が浮き彫りになりました。また、せっかく大使や海外からのクーリエがいらしても、休憩していただく部屋もありません。増築によってこれらの部分もできるだけケアできればと考えております。

議 長＝ぜひ収蔵庫増築予算の大枠の中でやりくりしていただきたいと思えます。

(3) 平成30年度活動計画について

議 長＝事務局に説明を求める。

事務局（担当学芸員）＝企画展、常設展、共催展、教育普及、保存、調査研究など活動計画を説明。

議 長＝協議事案についてご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。開館10周年、市制70周年という節目の年としては少し地味な気がします。

事務局B＝地味かもしれませんが、それぞれ内容は凝っております。10年の歩み展は開館以降に寄贈いただいたものを抜粋的に見せ、感謝の意をこめて開催するものです。「長谷川利行展」は全国でも18年ぶりに開催する本格的なもので、つい先日も代表作が見つかり、話題性のある展覧会になると思います。「へきなんの文化財展」は歴史のある当市の指定文化財を中心に国の指定となっている刀剣も出品する予定です。「愉しきかな！人生展」は、生きがいを失う高齢者も多い現代において美術館が社会貢献をしようとするもので、90歳を超えて活動した作家から生き抜く力を見つけようとするものです。「佐藤玄々（朝山）展」についても、玄々は院展作家として藤井との関わりもあった作家です。以前当館で開催した「抱きしめたい！近代日本の木彫展」では子どもにも人気があった作家ですし、展示方法や宣伝なども工夫して充実した展示にしたいと考えております。

議 長＝内容が素晴らしいのは承知していますが、岡本太郎や東山魁夷といったような一般市民に分かりやすい、作家名だけで人がくるような派手さはないように思います。内容をより深めてやっていただければと思います。ご意見、ご質問も出尽くしたようですので、協議事項につきましては以上とさせていただきます。

報告事項（非公開）

(1) 平成29年度第1回、第2回収集部会の結果について

議 長＝ご意見、ご質問がありましたらお願いしたいと思います。

事務局B＝先ほどの説明に補足しますと、現在当館の全収蔵作品は1,639点、その内藤井達吉作品759点になります。

議 長＝よろしいでしょうか。ご意見等特にないようですので、本日の議題ならびに報告事項につきましては以上ということにさせていただきます。

連絡事項

議 長＝事務局に説明を求める。

事務局A＝議事録の公開等について説明。

議 長＝委員の皆様より総括的な意見等あればお願いします。

委 員D＝課題として挙がっていた搬入口の件は、雨が降ったら搬入できないという事態にもなってきてしまうかと思えます。増築の際に解消できそうなのでしょうか？

事務局B＝その予定です。国内、国外から作品を借りることができなくなる事態もあり得ますので、ダブルシャッターでトラックを荷解室に格納し、安全に作品の搬出入を行えるようにしたいと思います。

委 員C＝エレベーターについてはいかがでしょうか。

事務局B＝エレベーターも実際困っているのですが、今回では難しい状況です。エレベーター庫内の倍のスペースが必要になってきますので、残念ながら次の段階かと考えております。

委 員C＝大きな作品をエレベーターで搬入できない問題があるので、こちらも対応していただければと思います。

議 長＝それではご意見も出尽くしたようなので、本日の議題ならびに報告事項につきましては以上ということにさせていただきます。